

正 誤 表

頁	訂正箇所	誤	正
4	表 I 7-1	表の列見出し 試料容器の種類 ⁽¹⁾	表の列見出し 保管方法 ⁽²⁾
4	表 I 7-1	表の列見出し 分析項目	表の列見出し 固定方法
5	I 8. a)	6～7 行目 現場泥温付近で 3,0003000～ 5,0005000rpm、20 分程度（上澄水が透明 になるまで）遠心分離を行う。ガラス製遠 沈管を用いる場合は 3,0003000 回転まで	6～7 行目 現場泥温付近で 3000～ 5000rpm、20 分程度（上澄水が透明になる まで）遠心分離を行う。ガラス製遠沈管を 用いる場合は 3000rpm まで
27	II 2. 5. 8(2)	1 行目 JIS K 0123 ガスクロマトグラフィ ー分析通則	1 行目 JIS K 0123 ガスクロマトグラフィ ー質量分析通則
30	II 2. 5. 11(2)	1 行目 JIS K 0114 ガスクロマトグラフ分 析通則	1 行目 JIS K 0114 ガスクロマトグラフィ ー通則
31	II 2. 5. 12(2)	1 行目 JIS K 0124 高速液体クロマトグラ フィー分析通則	1 行目 JIS K 0124 高速液体クロマトグラ フィー通則
45	II 4. 6(4)b)③	1 行目 操作ブランク試験は(4)⑧で調製	1 行目 操作ブランク試験は(4)a)⑧で調製
47	II 4. 7(2)b)	2 行目 水 1,0501050～1,1001100mL	2 行目 水 1050～1100mL
59	II 4. 8. 2. 1(4)d)	計算式 NH ₄ -N=(a-b)×f×200/v×0.700×100/W	計算式 NH ₄ -N=(a-b)×f×100/v×0.700×1/W
110	II 4. 14(5)c)	1 行目 検量線から試験溶液中のふっ化物 イオンの量を求め、	1 行目 検量線から試験溶液中の塩化物イ オンの量を求め、
124	II 5. 1. 3(2)e)	3～7 行目 5. 2. 1(2)c)の鉛標準液(0.1mgPb/mL)、 5. 3. 1(2)c)の銅標準液(0.1mgCu/mL)、 5. 4. 1(2)c)の亜鉛標準液(0.1mgZn/mL)、 5. 5. 1(2)c)の鉄標準液(0.1mgFe/mL)、 5. 6. 1(2)c)のマンガン標準液 (0.1mgMn/mL)、5. 7. 1(2)c)のニッケル標準 液(0.1mgNi/mL)、5. 8. 1(2)f)のモリブデン 標準液(0.1mgMo/mL)、5. 12. 1. 1(2)f)のク ロム標準液(0.1mgCr/mL)、5. 15. 1(2)c)の ベリリウム標準液(0.1mgBe/mL)、 5. 16. 1(2)c)のバナジウム標準液 (0.1mgV/mL)	3～7 行目 5. 2. 1(2)d)の鉛標準液(0.1mgPb/mL)、 5. 3. 1(2)d)の銅標準液(0.1mgCu/mL)、 5. 4. 1(2)d)の亜鉛標準液(0.1mgZn/mL)、 5. 5. 1(2)d)の鉄標準液(0.1mgFe/mL)、 5. 6. 1(2)d)のマンガン標準液 (0.1mgMn/mL)、5. 7. 1(2)d)のニッケル標準 液(0.1mgNi/mL)、5. 8. 1(2)d)のモリブデン 標準液(0.1mgMo/mL)、5. 12. 1. 1(2)d)のク ロム標準液(0.1mgCr/mL)、5. 15. 1(2)d)の ベリリウム標準液(0.1mgBe/mL)、 5. 16. 1(2)d)のバナジウム標準液 (0.1mgV/mL)
128	II 5. 1. 4(2)f)	5～6 行目 5. 8. 1(2)e)のモリブデン標 準液(1mgMo/mL)、5. 12. 1. 1(2)e)のクロム 標準液(1mgCr/mL)	5～6 行目 5. 8. 1(2)c)のモリブデン標 準液(1mgMo/mL)、5. 12. 1. 1(2)c)のクロム 標準液(1mgCr/mL)
136	II 5. 2. 4(5)b)注 (13)	多元素を同時に定量する場合は 5. 1. 4 注 (23)による。	多元素を同時に定量する場合は 5. 1. 4 注 (24)による。
141	II 5. 3. 3(5)c)②	3 行目 指示値 ⁽¹¹⁾⁽¹²⁾⁽¹³⁾ を読み取り	3 行目 指示値 ⁽¹¹⁾ を読み取り
143	II 5. 3. 4(5)b)注 (13)	多元素を同時に定量する場合は 5. 1. 4 注 (23)による。	多元素を同時に定量する場合は 5. 1. 4 注 (24)による。
150	II 5. 4. 4(5)b)注 (13)	多元素を同時に定量する場合は 5. 1. 4 注 (23)による。	多元素を同時に定量する場合は 5. 1. 4 注 (24)による。
150	II 5. 4. 4(5)c)①	1 行目 前処理した試験溶液 ⁽¹³⁾ の適量を	1 行目 前処理した試験溶液の適量 ⁽¹⁴⁾ を
150	II 5. 4. 4(5)c)	注(13)	注(14)
157	II 5. 5. 4(5)b)注 (13)	多元素を同時に定量する場合は 5. 1. 4 注 (23)による。	多元素を同時に定量する場合は 5. 1. 4 注 (24)による。
164	II 5. 5. 6(5)b)注 (13)	多元素を同時に定量する場合は 5. 1. 4 注 (23)による。	多元素を同時に定量する場合は 5. 1. 4 注 (24)による。

164	II 5. 6. 4(5)c)	1行目 前処理した試験溶液 ⁽¹⁴⁾ の適量を	1行目 前処理した試験溶液の適量 ⁽¹⁴⁾ を
167	II 5. 7. 2(2)c)	1行目 5. 7. 1(2)c)のニッケル標準液	1行目 5. 7. 1(2)d)のニッケル標準液
171	II 5. 7. 4(5)b)注(13)	多元素を同時に定量する場合は5. 1. 4注(23)による。	多元素を同時に定量する場合は5. 1. 4注(24)による。
171	II 5. 7. 4(5)c)	1行目 前処理した試験溶液または測定溶液 ⁽¹⁴⁾ の適量を	1行目 前処理した試験溶液または測定溶液の適量 ⁽¹⁴⁾ を
173	II 5. 8. 1(2)d)	1行目 e)のモリブデン標準液	1行目 c)のモリブデン標準液
173	II 5. 8. 1(5)b)①	2行目 (0.1 μgMo/mL) を	2行目 (1 μgMo/mL) を
174	II 5. 8. 2(2)d)	1行目 5. 8. 1(2)g)による。	1行目 5. 8. 1(2)e)による。
176	II 5. 8. 3(2)d)	1行目 5. 8. 1(2)f)のモリブデン標準液	1行目 5. 8. 1(2)d)のモリブデン標準液
177	II 5. 8. 3(5)b)注(12)	多元素を同時に定量する場合は5. 1. 4注(23)による。	多元素を同時に定量する場合は5. 1. 4注(24)による。
193	II 5. 10. 2(5)b)注(5)	3行目 各 5mL 加え、	3行目 各 1mL 加え、
203	II 5. 12. 1. 1(2)d)	1行目 e)のクロム標準液	1行目 c)のクロム標準液
204	II 5. 12. 1. 2(2)d)	1行目 5. 12. 1. 1(2)g)による	1行目 5. 12. 1. 1(2)e)による
207	II 5. 12. 1. 3(5)b)注(12)	多元素を同時に定量する場合は5. 1. 4注(23)による。	多元素を同時に定量する場合は5. 1. 4注(24)による。
223	II 5. 13. 3(2)e)	5. 13. 1(2)h)による	5. 13. 1(2)j)による
223	II 5. 13. 3(2)f)	5. 13. 1(2)i)のほう素標準液	5. 13. 1(2)j)のほう素標準液
244	II 5. 15. 2(2)e)	5. 15. 1(2)d)による	5. 15. 1(2)e)による
247	II 5. 15. 3(5)b)注(10)	多元素を同時に定量する場合は5. 1. 4注(23)による。	多元素を同時に定量する場合は5. 1. 4注(24)による。
249	II 5. 16. 2(2)e)	5. 16. 1(2)d)による	5. 16. 1(2)e)による
251	II 5. 16. 3(2)d)	1行目 5. 16. 1(2)c)のバナジウム標準液	1行目 5. 16. 1(2)d)のバナジウム標準液
252	II 5. 16. 3(5)b)注(10)	元素を同時に定量する場合は5. 1. 4注(23)による。	多元素を同時に定量する場合は5. 1. 4注(24)による。
254	II 5. 17. 1(5)b)注(2)	5行目 及びレニウム(1 μg/mL)を各 5mL 加え、	5行目 及びレニウム(1 μg/mL)を各 1mL 加え、
270	II 6. 2. 1(4)a)	②以下の b)溶媒抽出または c)固相抽出のいずれかの操作を行う。	(削除)